

『山梨県環境整備センターオオタカ保護連絡会議』について

～ 会議の概要 ～

《経緯》

- ・ 財団法人山梨県環境整備事業団では、平成12年から山梨県環境整備センター（以下、「センター」という。）周辺でのオオタカの生息・繁殖状況のモニタリング調査を開始した。
- ・ 平成13年には、鳥類専門家によるオオタカ保護策に係る検討を目的とした会議を開催し、平成19年からは、地元自然保護団体を加えた『オオタカ保護連絡会議』を設置した。
- ・ 以後、同会議では毎年実施したモニタリング調査結果の評価・検討を行っている。
- ・ 今回の会議は、通算7回目の開催となる。

《平成23年の保護連絡会議の内容》

本日の会議では、以下のとおり平成23年のオオタカモニタリング調査結果と、平成24年の調査計画について検討を行った。

（1）平成23年モニタリング調査結果について、次のとおり了解された。

- ・ 今年新たに確認された新巣において、幼鳥1羽の巣立ちが確認され、平成21年5月のセンター開業後初となるオオタカの繁殖が成功した。
なお、その要因は、造巣期（4月）の天候が昨年や1979年から2000年の平均と比べて良好であったことと、この巣が人の通行可能な道から離れており人圧等による影響が少なかったため。
- ・ 今年のセンター事業は、今年のオオタカの繁殖に影響を与えていないこと。

（2）平成24年モニタリング調査計画について、次のとおり承認された。

- ・ センターでは、漏水検知システムの異常検知を受け、平成22年10月5日から廃棄物の搬入を停止し、原因究明調査を平成23年7月4日まで実施してきたため、通常 of 廃棄物の最終処分業務を行なっていなかった。このため、平成24年も、平成23年と同等のモニタリング調査を適切に継続して実施すること。

（3）その他

- ・ 地元自然保護団体の委員から、「センター周辺を対象とした本会議の目的を超える意見ではあるが、明野の広域的な営巣環境の保全に関して行政は更に配慮していただきたい。」との意見が出された。